



2023年7月
第739号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 〇四六三(32)八八三一



外に目を向けてください

平塚教会牧師 北川一明

主を待ち望め

雄々しくあれ、心を強くせよ

主を待ち望め

(詩二七・14)

模範的な祈りを祈るのは善いことですが、本音なしの模範では偽善になります。現在の自分(すなわち罪ある人間)の本音と、模範的な祈りとをすり合わせることで、初めて神の愛と御心が分かってきます。そこで平塚教会は「ひとつのことを主に願い/それだけを求めよう(詩二七・4)」という聖句で今年度を過ごしています。詩篇の詩人は1〜6節で模範的に祈りますが、7〜12では本音を吐露します。それなのに本項冒頭に掲げた最後の14節は、まるで別次元の言葉です。個人的な詩が、いきなり同胞に対する叱咤激励になります。外に目を向けたことが、詩人自身の励ましになりました。これが救いの始

まりです。

中野に聖書之友教会という教会があります。明治から発行されていた『聖書之友』誌を出していた教会ですが、今、消滅の危機に瀕しています。私の妻である金園播が牧師として、ピンチをチャンスに変えようと国際学生会館構想を打ち出しました。平塚教会に対して協力依頼があり、過去の役員会で協力を決めました。牧師の個人的な関係からの協力要請です。しかし平塚教会牧師としての私の意識は、聖書之友教会の件を、平塚教会のためのきっかけにしたかったです。外に目を向けることで信仰を振起したいのです。

今までは、私が妻の相談にのっていました。平塚教会の牧師が教区の異なる教会のために時間を割いて考えているのですから、既に協力は始まっています。しかし牧師が一人でやっているのでは、せっかくの恵みが活かせません。ぜひ教会員のみなさんも聖書之友教会のために心を砕いていただきたいのです。

キリスト教会は自分のメリットを優先する宗教団体ではありません。世に対して尊い働きをしようとする宗教団体です。自分のための宗教では、傍からみたら何の魅

目次

外に目を向けてください

牧師 北川一明 …1

平和を学ぶ会を再開しました

中村寛志 …3

信仰50年を迎えて②

信仰50年によせて

編集後祈

庄司壽美 …4

…4

力もありません。キリスト教会の伝道が低調なのは、教会が「自分のため」になり始めたからかもしれません。

国際学生会館構想とは、近在の青山学院、立教大学などの地方出身、または外国出身の学生に、礼拝堂付きの学生寮に住んでもらおうというものです。

キリスト教系の大学は地方のキリスト教系高校に対しては多くの「キリスト教推薦枠」を設けています。キリスト教に馴染みのある生徒を集めることでキリスト教教育をより実体のあるものにしたいたからです。

しかし親元から解放された学生を教会につなげるのは困難です。大学チャプレンから「聖書之友教会学生会館が受け皿になってくれると有り難い」という言葉をもらっています。学生を送り出す家庭にとっても安心できる面があり、需要は十分見込めます。

高田馬場6分、西武新宿10分の「新井薬師前駅」から歩5分程度の所にある97坪のほぼ正方形の土地です。駅前は現在再開発中で、学生人気がさらに高まること

期待できます。

二階または三階建てで学生はバス、トイレ、キッチン付きのワンルーム、礼拝堂と集会室・大キッチンが共有スペースという計画です。プライバシーは守られる上に学生交流も可能です。

礼拝堂は「聖別」されていることを考えると、本来は多目的にすべきではありませんが、そこは背に腹は代えられません。防音にして音楽演奏にも使えることをセールスポイントにします。

学生好みの格好いい建築にしたいのですが元手がありません。とりあえず建てて三〇年間に資金を貯め、次代か次々代の人たちに超格好良いのを計画してもらおうと思っています。

それにしても億に近い金額を用意しなければ計画は実現しません。土地の担保価値は二億円程度とっています。が、教団の規則で土地を担保に借金することが禁じられていて困っています。かといって全国献金で実現するとは思えません。

右に書いた通り需要は見込めるのできちんとした資金回収計画を立て、万一の場合には解散して土地を売れば元本割れは

ないことを明示して教会債を億単位で集めることが出来れば有り難いです。十分な元手が集まりそうになれば土地の一部を売って建てるプランです。

平塚教会の教会員のみなさんにも、ぜひご協力いただきたいです。ただし、教会員であれば自分の教会を支えることを第一に考えるべきです。平塚教会も長期的な会堂の維持管理を考えたら余所の教会に献金する余裕はそうないでしょう。

銀行定期預金以上の利息で教会債を発行すると、信心深い平塚教会の信徒たちはせっせと債権を買い、利息分は自分の教会に献金するだろう。そうすれば平塚、聖書之友、両方ウイン・ウインだ…と、勝手な狸皮算用をするのは計画する人の自由ですが、実現するでしょうか…。

実現するかしないかは神の責任領域です。聖書之友教会としては、とにかくやってみるしかありません。平塚教会のみなさんには夢を共有し、一緒に希望を抱いていただきたいのです。目的は建物ではありません。目的は私たち自身の信仰です。



《平和を学ぶ会》を再開しました

総会資料の集計表で、2019年度は出席者数平均9名でしたが、2020年度以降はゼロ名。

2020年の4月から、集会自粛という事で平和を学ぶ会も休会になりました。壮年会・地塩会・うどん昼食会・お茶やコーヒーが用意されていた茶話会等も全面中止。クリスマス集会も開催自粛。以来、2020年5月までの3年間、再開を願う声を聞きながら集会の出来る日を待っていました。

3年経過するうちに、我々の年齢も進み、礼拝の形式・リモート配信・外出自粛が、更に礼拝に参加する行動力と精神力を削いだような気がします。今年度、国の方針も変更され、平和を学ぶ会再開の5月21日には、5名が集まりました。食事は控え、軽い茶菓の用意だけで、お昼過ぎまで顔を合わせて語り合うことに新鮮さを感じました。これからの様な事を取り上げるか話し合いました。

この3年間で、内外に大きな変化がありました。ロシアのウクライナ侵攻。この日本では、

防衛に関する政策上の転換。武器購入・製造と輸出に向かいたい業界の圧力がついに政府を動かすはじめ、攻撃を受けても対抗できる戦力を持つと画策する国になって来ています。私たちのテーマである平和とは正反対のことが現実となりつつあります。「国民の生命と財産を守る」というのは、形ばかりの決まり文句。軍隊だけでは、決して国民全ては守れません。

コロナウイルスの感染拡大も、一種の戦争であったが、明らかな医療の進歩・発展が、人間の持つ知恵と工夫で、何とか抑え込みつつ進む方向が見えて来ました。現に生じている戦争も、我々の知恵と工夫によって終結に向かうことが出来ると信じています。それが人間であるゆえんでもあります。

私たちの学びをどの様に進めるか。先ず、キリスト教と戦争との関係、聖書は戦争をどの様に見ているか。そのあたりから、分かりやすい、平易なテキストを読み進めることにしたい。教会の中で平和を願う方々に、一人でも多く参加出来るように、皆でテキストを探す。楽しく学び、有意義な時

間となるようにと願っています。

ささやかでも、平和を求める意志を発信出来る様に。教会学校の子ども達、幼稚園の子ども達、全ての子ども達のために、世界は穏やかであって欲しいと願うところです。

平和を学ぶ会の創始者である岡本不二夫牧師が、座右の銘としていた言葉

少数にて 常に少数にてありしかば
ひとつ心を保ち来にけり「土屋文明」

今まで持たれていた集会も、再開しませんか？ イースターとペンテコステを経た今がチャンス！ (中村寛志)



信仰50年を迎えて②

6月18日は、創立記念礼拝を守りました。礼拝後4年振りに茶話会を設け皆さんと共に談笑をしました。その席上で、信仰50年をお迎えた。阿閑牧子姉・庄司壽美姉・谷口美佐子姉(欠席)に北川一明牧師より聖書が贈呈されました。平塚教会は、1920年6月20日神奈川県知事に平塚美普教会設立願い申請し(水野重吉牧師)、10月2

